

第3問 都市・村落と生活文化に関する次の問い(問1～5)に答えよ。(配点 15)

問1 次の写真1中のア～エは、世界の都市でみられる住宅景観を示したものである。写真1中のア～エを説明した文として下線部が**適当でないもの**を、後の①～④のうちから一つ選べ。

13



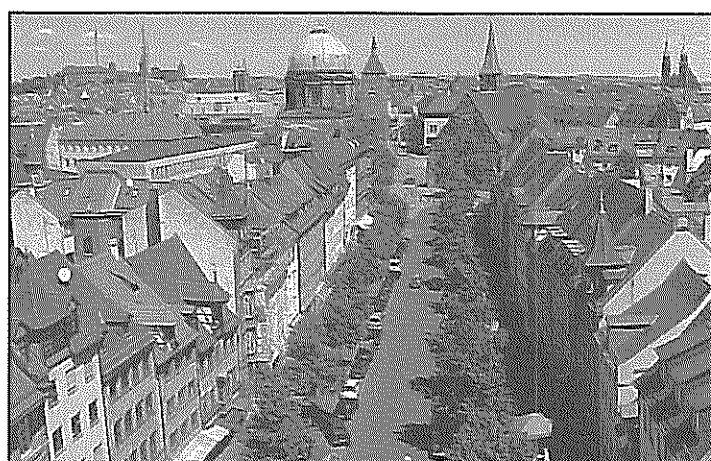
ア



イ



ウ



エ

写真1

- ① **ア**はモスクワであり、建物が整然と配置された集合住宅地区が郊外に形成されている。
- ② **イ**はロサンゼルスであり、庭や車庫を持つ低層の戸建て住宅地区が都心部に形成されている。
- ③ **ウ**はアモイ(中国)であり、さまざまな大きさや高さの建物が高密度に混在している。
- ④ **エ**はニュルンベルク(ドイツ)であり、教会などの歴史的建築物や高さのそろった中層の建物からなる旧市街が保存されている。

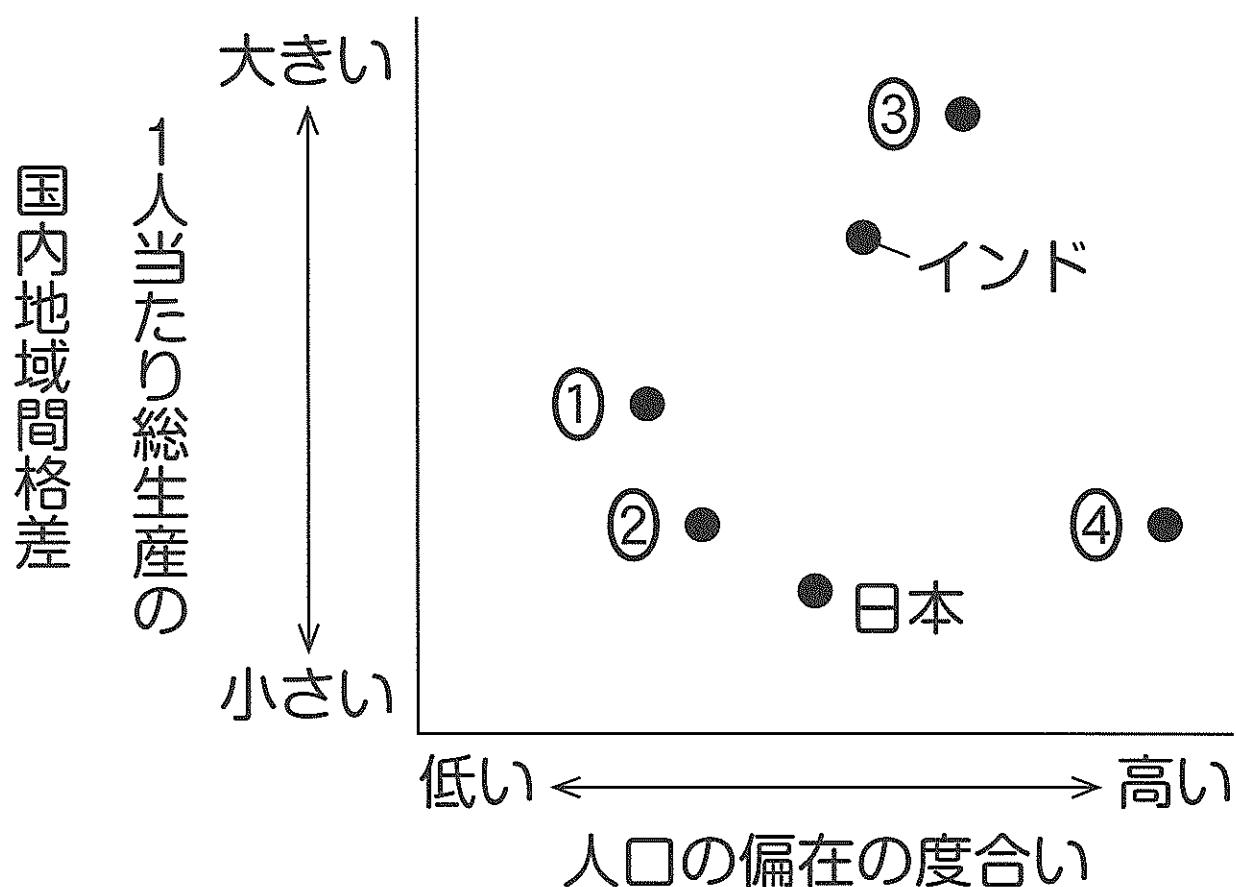
問 2 都市や村落の成り立ちについて述べた文として最も適当なものを，次の①～④のうちから一つ選べ。 14

- ① 唐の長安を模して，放射・環状の街路網を特徴とする計画都市が，古代の日本にも建設された。
- ② 江戸時代の日本では，社会が安定したことで，主要な街道の中継点や分岐点に自治権をもつ自由都市が形成された。
- ③ 西部開拓時代のアメリカ合衆国では，タウンシップ制のもとで，直交する道路に沿って家屋が隣接する集村が形成された。
- ④ 近代には，産業革命の進展にともなって，マンチェスターやエッセンなどの工業都市が成長した。

問 3 次の図 1 は、いくつかの国における人口の偏在の度合い*と 1 人当たり総生産の国内地域間格差を示したものであり、①～④は、オーストラリア、オランダ、南アフリカ共和国、メキシコのいずれかである。オーストラリアに該当するものを、図 1 中の①～④のうちから一つ選べ。

15

*総人口のうち、人口密度の高い上位 10 % の地域に住む人口の比率。



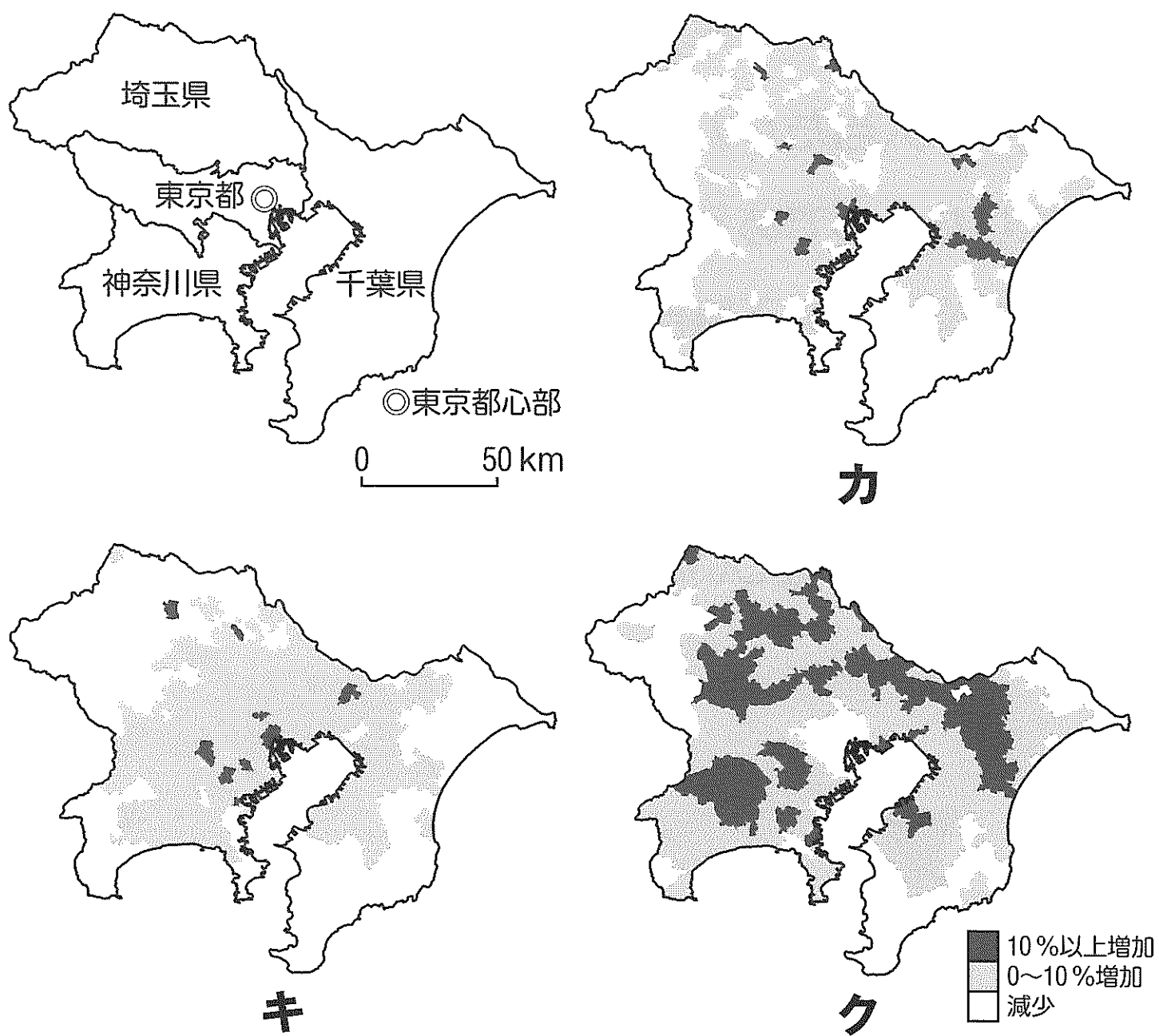
統計年次は、人口の偏在の度合いが 2012 年、1 人当たり総生産の国内地域間格差が 2010 年。

OECD, *Regions at a Glance 2013* により作成。

図 1

問 4 次の図 2 は、いくつかの時期における東京圏(とうしよ^{とうしよ}島嶼部を除く東京都、神奈川県、埼玉県、千葉県)の市区町村別人口増加率を示したものであり、カ～クは、1985 年～1990 年、1995 年～2000 年、2005 年～2010 年のいずれかである。図 2 中のカ～クについて古いものから年代順に正しく配列したものを、後の①～⑥のうちから一つ選べ。

16



国勢調査により作成。

図 2

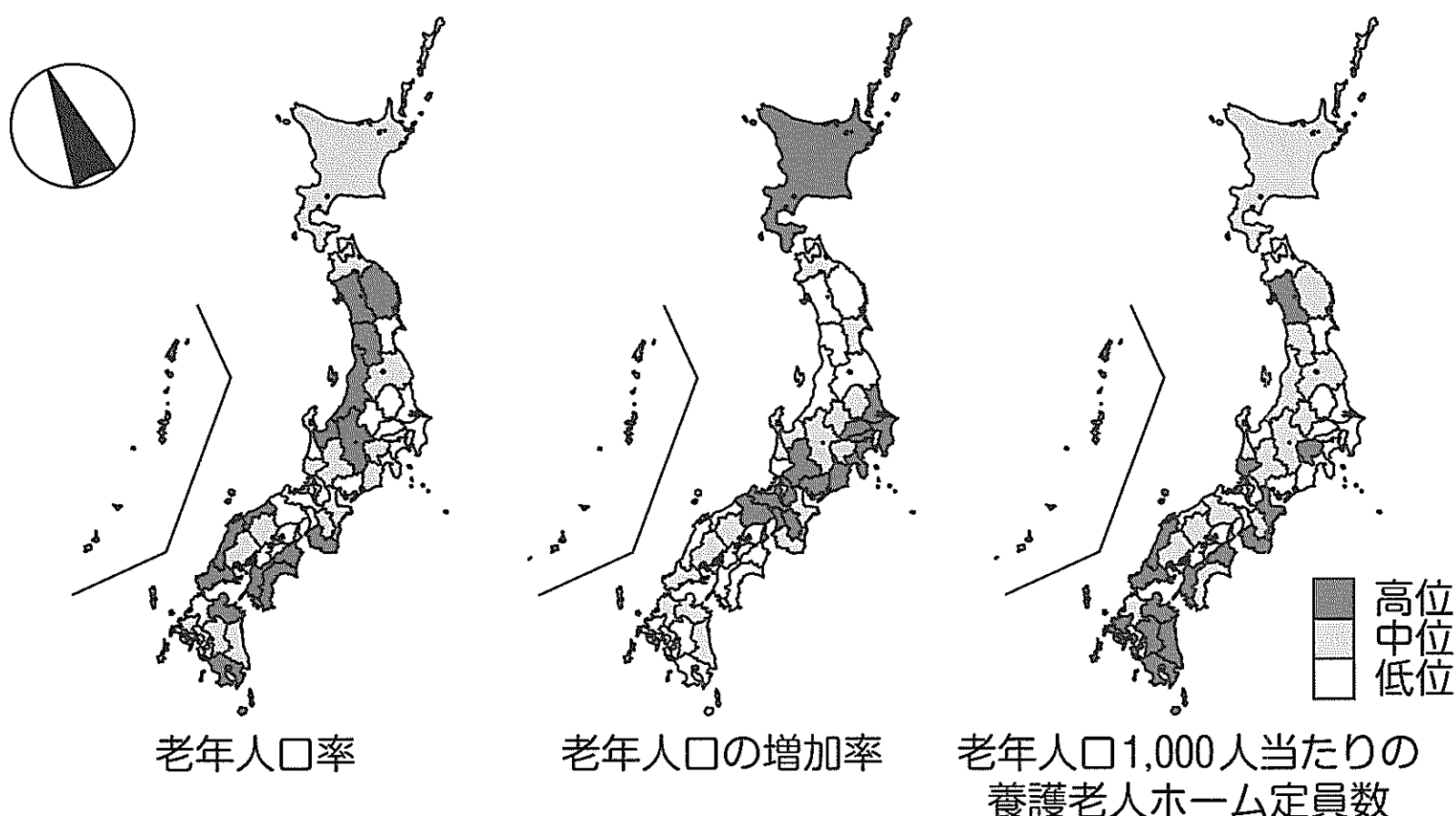
- ① カ → キ → ク
- ② カ → ク → キ
- ③ キ → カ → ク
- ④ キ → ク → カ
- ⑤ ク → カ → キ
- ⑥ ク → キ → カ

問 5 次の図 3 は、老年人口率*、老年人口の増加率、老年人口 1,000 人当たりの養護老人ホーム**定員数を都道府県別に示したものである。図 3 に関することからについて述べた後の文章中の下線部①～④のうちから、**適当でないもの**の一つ選べ。

17

*総人口に占める 65 歳以上の人口の割合。

**自宅での介護が難しい高齢者が入所する介護施設。



統計年次は、老年人口率、老年人口 1,000 人当たりの養護老人ホーム定員数が 2010 年、老年人口の増加率が 2000～2010 年。

国勢調査などにより作成。

図 3

日本では高齢化が進んでいるが、高齢化の進展には地域差がある。①老年人口率は、三大都市圏よりも非大都市圏で高い。また、非大都市圏に比べ、②老年人口の増加率が高い地域は三大都市圏に多く、③老年人口1,000人当たりの養護老人ホーム定員数も三大都市圏で多い傾向がある。三大都市圏では④高度経済成長期に流入した当時の若年層が高齢期に入り、さらなる老年人口の増加が見込まれる。